

福岡県周辺の基地の動き 第5号

築城基地で4回目の米軍機訓練移転(共同訓練)!

米軍の第35戦闘航空団(青森県三沢)のF-16戦闘機6機が、築城基地を使用して7月8日(金)~15日(金)の期間、築城基地の航空自衛隊第8航空団のF-2とF-15戦闘機との“戦闘機戦闘訓練等”を実施。

人命軽視の航空自衛隊

7月5日に航空自衛隊那覇基地所属のF-15戦闘機(879号機)が墜落事故を起こした中で、共同訓練を強行。

航空自衛隊は「稼働機全機の点検を終了し、異常がないことを確認できた」とし、7月12日以降からF-15の飛行訓練を再開。パイロットも見つからず機体も海底に沈んだ不明のまま、原因も解明できていない中での再開は、“旧軍の兵士の命を軽視する流れ”が受継がれているのではないのでしょうか。

三沢の第35戦闘航空団(35FW)



着陸する14FSのF-16(今回6機参加)

この航空団には第13戦闘航空飛行隊(13FS:垂直尾翼部上が赤)と第14戦闘航空飛行隊(14FS:黄)の2飛行隊がF-16を運用。敵防空網制圧(SEAD)を意味する「WW」(ワイルドウィールズ)を垂直尾翼に表示している。三沢のF-16はこのSEADを一步進めた機体に改修されている。(敵防空網破壊:DEAD)

戦争になれば「敵」のレーダーを破壊する目的でいち早く出撃する部隊であり、イラクにも出撃し、在韓米軍とも頻繁に訓練している。

地元で日米共同訓練中止を求め、基地への申し入れと抗議集会

京築地区の5団体は7月6日(水)、築城基地へF-15戦闘機の飛行と日米共同訓練の中止を求める申し入れを行ないました。基地側は「F-15の共同訓練参加は見合わせている」と応えていましたが、共同訓練に参加するF-15を14日の監視行動で確認されました。

11日早朝には基地の見える場所で、抗議集会を行ない、参加者は抗議の声を基地へ向って唱和しました。